



2019年度の活動報告書

こども海の学習プログラム普及プロジェクト

2020年3月
こども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会

プロジェクトの目的

2019年「こども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会」発足にあたって

2020年度から本格実施される文部科学省の新学習指導要領にSDGsが盛り込まれました。「持続可能な社会の創り手を育成する」という学習指導要領の理念はSDGsそのものであります。

ESD（持続可能な開発のための教育）という先進的な取り組みはあるが、先生同士のつながりは希薄で、情報や教材、模範となるカリキュラムが不足しており、子どもたち、学校の先生を支援するプログラムが求められています。

教育現場のニーズをつかんだ「海のSDGs」を中心とした教育プログラムを開発し、子どもたち自らが課題を学び、解決方法を考え、行動に移してもらおう。こうした子どもたちの活動や取組を、全国の子どもたち、小学校に広めることを目的とし、活動を始めました。

この事業の主題

SDGs14番目の目標「海の豊かさを守ろう」を通じて、子どもたち、学校の先生を支援するプログラムを提供するプロジェクト

これからの時代を生き抜く子どもたちに必要な“持続可能な社会づくり”に必要な知識、考え方、能力を育成することを目標に全国で10校、合計900名近くの児童が参加する出張授業「こどもと海のSDGs～SDGsってなんだろう」を実施。その結果をもとに学習教材を制作する傍ら、「海と日本プロジェクト」の様々な取り組みを朝日小学生新聞に掲載。都度、全国の読者約10万人に訴求することができた。

2019年度のミッション

実施①



全国10の小学校で海のSDGsの
出張授業45分×2コマを実施

①全国の小学校で出張授業を実施

学習教材製作に向けた小学校での出張授業の実施及び調査

- (1) 学校応募期間 2019年5月末～6月14日（予定）
実施する学校決定 2019年6月19日（水）
出張授業実施2019年7～12月 10校
- (2) 場 所 全国（応募校によって決定）
- (3) 参加者 10校で児童約700名想定

実施②



教育プログラムの実地検証を元に
学習教材を制作・印刷

②海のSDGsに関する学習教材を制作

海のSDGs学習教材の制作、印刷、出張授業を受けてくれた児童に配布

- (1) 制作、印刷 2019年9-2020年3月
送付時期 2020年3月
- (2) 配布 出張授業を受けてくれた小学校の児童
- (3) 配布数 900部程度（1,000部印刷）

実施③



朝日小学生新聞で年間を通じて
継続的な広報活動を実施

③継続的な広報

朝日小学生新聞にて海と日本プロジェクトの活動を定期的に発信

- (1) 制作、発行 2019年6月-2020年3月
- (2) サイズ・回数 全5段前後、約20回
- (3) 発行部数 全国約100,000部

①全国の小学校で出張授業を実施

出張授業「SDGsってなんだろう」

全90分 授業は2時限（45分×2コマ）を3つのパートから構成しました。

授業Part 1 アクティブラーニングでSDGsとは何かを学ぶ（45分）

①人間が克服してきたことを例をあげ、子どもたちに一緒に考えてもらう

みんな社会科で習ったと思うけど、昔の人は土器を作って使ったよね。
土器は何に使われたんだろう？
⇒土器は煮炊きに使われて、これで昔の人はあたたかい食べ物を食べる
ことができた
⇒冬の寒さを克服することができた
⇒煮ることで硬い肉を柔らかくすることができ、しっかり栄養が取れる
⇒健康になる病気を克服

②子どもたちにカード（付箋紙）を配布して、 私たちが克服しなくてはいけない問題は何か書いてもらう（3分間）

付箋紙は一人数枚配布
克服しなくてはいけない問題と
名前を書いてもらう

海のごみ 嶋田英輔	テロをなくす 山本徹	温暖化対策 山本徹
--------------	---------------	--------------

③記入してもらったカードがSDGsの17の目標のどこにあたるか貼ってもらう。

みなさんにいろいろ克服しなくてはいけないことを書いてもらったけど、
様々な問題を集約すると17つにまとめられる
みなさんが大人になる2030年までにこの問題を世界中で解決
しましょうと世界でできた これを難しい言葉でSDGsといいます。

1 貧困をなくそう	2 熱帯をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を實現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に



メイン講師の手島利夫先生がPart1を担当

1952年、東京都生まれ。早稲田大学・青山学院大学卒業。
江東区立東雲小学校・八名川小学校の校長を歴任し、ユネスコスクールとしてE S Dカレンダーの開発やE S Dの推進に携わり、現在に至る。
2007年から11年間 E S D 円卓会議委員を務める。
2010年東雲小が、2012年八名川小がユネスコスクール E S D 大賞を受賞。
2014年 E S D 世界会議に参加。
2015年博報児童教育振興会より教育活性化部門で「博報賞」を個人受賞。
2016年八名川小学校 P T A が文部科学大臣賞を受賞。
2017年八名川ファミリー学校支援本部が文部科学大臣賞受賞。
2017年八名川小学校がジャパン S D G s アワード特別賞を受賞。
共著に「未来をつくる教育 E S D のすすめ」（日本標準ブックレット2008年）、
単著に「学校発・E S D の学び」（教育出版2017年）

授業Part2 ゲスト講師による、海が抱える今～これからの問題（30分）

ゲスト講師は毎回1名が登場（10校で延べ6名のゲスト講師にご協力いただきました）
メイン講師とゲスト講師の事前打ち合わせにより内容を構築しました。



科学ジャーナリスト 山本智之氏



海洋研究開発機構 原田尚美さん



海洋管理協議会（MSC） 石井幸造さん



東海大学海洋学部博物館学芸員 伊藤芳英さん



京都造形芸術大学教授 竹村眞一さん



遠忠食品 宮島一晃社長

授業Part3 まとめ（15分）

メイン講師（手島先生）が再び登場し、ゲスト講師とも対話しながら問題点をおさらい。
“子供にも世界を変える力がある”ことを確認し、“気づき、行動する事”を約束して終了。
記念撮影、アンケート配布、インタビューなども行いました。

出張授業実施校

1	千葉県 八千代市立大和田南小学校	住所	〒276-0045 千葉県八千代市大和田628		実施日	6月28日	金	3時間目 (10:35~11:20)	
		担当の先生	滝沢 啓	電話				047-484-6336	4時間目 (11:30~12:15)
		希望学年	5年生					125名	下見 6月24日 (月) 16:00
2	東京都 世田谷区立赤堤小学校	住所	〒156-0044 東京都世田谷区赤堤1-41-24		実施日	7月11日	木	3時間目 (10:45~11:30)	
		担当の先生	堀江 理砂	電話				03-3323-0291	4時間目 (11:35~12:20)
		希望学年	6年生	児童数				99名	下見 6月3日 (水) 17:30
3	北海道 札幌市立太平南小学校	住所	〒002-8001 北海道札幌市北区太平一条1丁目		実施日	9月4日	水	3時間目 (10:50~11:35)	
		担当の先生	隈本 一哉	電話				011-772-0641	4時間目 (11:35~12:25)
		希望学年	5年生	児童数				54名	下見 9月3日 (火) 16:00
4	愛知県 豊橋市立大崎小学校	住所	〒441-8073 愛知県豊橋市大崎町字西里中20-1		実施日	9月11日	水	3時間目 (10:40~11:25)	
		担当の先生	坂本 貴之	電話				0532-25-1720	4時間目 (11:30~12:25)
		希望学年	6年生	児童数				36名	下見 9月10日 (火) 16:00
5	京都府 京都市立岩倉北小学校	住所	〒606-0021 京都府京都市左京区岩倉忠在地町5		実施日	9月27日	金	3時間目 (10:45~11:30)	
		担当の先生	葉山 智子	電話				075-721-5618	4時間目 (11:35~12:20)
		希望学年	5年生	児童数				55名	下見 9月26日 (木) 16:00
6	大阪府 大阪市立南小学校	住所	〒542-0083 大阪府大阪市中央区東心斎橋1-14-29		実施日	10月4日	金	5時間目 (13:55~14:40)	
		担当の先生	池田 花笑子	電話				06-6791-7501	6時間目 (14:50~15:35)
		希望学年	6年生	児童数				32名	下見 10月3日 (木) 16:00
7	宮城県 仙台市立東長町小学校	住所	〒982-0003 宮城県仙台市太白区郡山6-5-1		実施日	10月18日	金	5時間目 (13:25~14:10)	
		担当の先生	小島 友里	電話				022-248-0238	6時間目 (14:15~15:00)
		希望学年	5年生	児童数				114名	下見 10月17日 (木) 16:00
8	広島県 広島市立中野東小学校	住所	〒739-0321 広島県広島市安芸区中野5-11-1		実施日	10月23日	水	5時間目 (14:00~14:45)	
		担当の先生	春木 美希	電話				082-893-0204	6時間目 (14:50~15:35)
		希望学年	5年生	児童数				61名	
9	神奈川県 鎌倉市立小坂小学校	住所	〒247-0055 神奈川県鎌倉市小袋谷587		実施日	11月8日	金	3時間目 (10:40~11:25)	
		担当の先生	水本 沙織	電話				0467-44-1228	4時間目 (11:30~12:15)
		希望学年	6年生	児童数				103名	下見 10月31日 (木) 16:00
10	東京都 目黒区立五本木小学校	住所	〒153-0053 東京都目黒区五本木2丁目2-4-3		希望日	12月3日	火	3時間目 10:45~11:30	
		担当の先生	吉武ちえ	電話				03-3711-8494	4時間目 11:35~12:20
		希望学年	5、6年生	児童数				150名	下見 11月7日 (木) 15:40

2019年6月28日(金)

千葉県 八千代市立大和田南小学校 5年生125名

講師:日本ESD学会副会長 手島利夫

ゲスト講師:科学ジャーナリスト 山本智之
海の温暖化について



講師の手島利夫先生



科学ジャーナリスト 山本智之氏

ユネスコスクールにも登録され、ESD活動に力を入れている千葉県八千代市立大和田南小学校の5年生の児童を対象に出張授業を実施。

講師を務めるのは日本ESD学会副会長の手島利夫氏。手島先生は東京の小学校の校長を歴任し、現在、学校教育の現場でESD・SDGsの普及に努めています。

授業は、人類がこれまでに克服してきた事柄や、現在直面している問題などを児童に考えてもらうワークショップ形式です。児童同士相談してもいいので、会場は大変にぎやか。一人ひとり付箋紙にこれから私たちが克服していかないといけいと思う問題を書き込み、それがSDGsの17つの目標の何番にあたるのかを考えて貼ってもらいます。

授業の後半は、元朝日新聞社科学医療部の記者で科学ジャーナリスト・山本智之氏が、山本氏が実際に沖縄の海や南氷洋で見てきたこと、調査してきたことを映像や写真で紹介。児童が真剣に聞き入っている様子に大和田南小学校の先生も驚いていました。



2019年7月11日(木)

東京都 世田谷区立赤堤小学校 6年生99名

講師:日本ESD学会副会長 手島利夫

ゲスト講師:朝日新聞社 山本智之
海の温暖化について



講師の手島利夫先生



科学ジャーナリスト 山本智之氏

持続可能な社会を作る主体的なこども、世界の課題を「自分ゴト」として捉えられる子供を目指し、積極的にSDG sに取り組んでいる世田谷区立赤堤小学校の6年生の児童を対象に出張授業を実施。

講師を務めるのは日本ESD学会副会長の手島利夫氏。手島先生は東京の小学校の校長を歴任し、現在、学校教育の現場でESD・SDG sの普及に努めています。

授業は、人類がこれまでに克服してきた事柄や、現在直面している問題などを児童に考えてもらうワークショップ形式です。児童同士相談してもいいので、会場は大変にぎやか。一人ひとり付箋紙にこれから私たちが克服していかないとはいけないと思う問題を書き込み、それがSDG sの17つの目標の何番にあたるのかを考えて貼ってもらいます。

授業の後半は、元朝日新聞社科学医療部の記者で科学ジャーナリスト・山本智之氏が、山本氏が実際に沖縄の海や南氷洋で見てきたこと、調査してきたことを映像や写真で紹介。最後のまとめでは「大人が考えた答えだけが答えじゃない」事も習いました。



2019年9月4日(水)

北海道 札幌市立太平南小学校 5年生54名

講師:日本ESD学会副会長 手島利夫

ゲスト講師:JAMSTEC 原田尚美

海の酸性化について



講師の手島利夫先生



国立研究開発法人 海洋研究開発機構 原田尚美さん

SDGsを校内の学習に位置付けていきたいと考え、2年前から積極的に取り組まれている札幌市立太平南小学校の5年生の児童を対象に出張授業を実施。

講師を務めるのは日本ESD学会副会長の手島利夫氏。手島先生は東京の小学校の校長を歴任し、現在、学校教育の現場でESD・SDGsの普及に努めています。

授業は、人類がこれまでに克服してきた事柄や、現在直面している問題などを児童に考えてもらうワークショップ形式です。児童同士相談してもいいので、会場は大変にぎやか。一人ひとり付箋紙にこれから私たちが克服していかないとはいけいと思う問題を書き込み、それがSDGsの17つの目標の何番にあたるのかを考えて貼ってもらいます。

授業の後半は、女性として2人目の南極観測隊員に選ばれた事もある原田尚美さん。南極における体験談など自己紹介の後、ご自身で研究されている「海洋酸性化」の話へ。難しい話を寿司ネタの貝などに例え、豊かな海を守るために解決しなくてはならない問題は多様にある事も習いました。



2019年9月11日(水)

愛知県 豊橋市立大崎小学校4・6年生 57名

講師:日本ESD学会副会長 手島利夫

ゲスト講師:MSC 石井幸造

海のエコラベルについて



講師の手島利夫先生



海洋管理協議会 (MSC) 石井幸造さん

本年度より豊橋市の研究委嘱を受けESDを進めていくことになった、豊橋市立お先小学校の4,6年生の児童を対象に出張授業を実施。

講師は東京の小学校の校長を歴任し、現在、学校教育の現場でESD・SDGsの普及に努めている、日本ESD学会副会長の手島利夫氏。

授業は、縄文時代にさかのぼり克服してきた事柄を紹介し、現代で取り扱わなくてはならない問題などを児童に考えてもらうワークショップ形式です。児童同士相談したり、SDGsの17枚のボードに貼ったりと賑やかです。

授業の後半は、海洋管理協議会 (MSC) のプログラムディレクター、石井幸造さんが登場。「みなさんの好きな魚は何ですか?」。石井さんの呼びかけに、児童たちは口々に魚の名前を挙げます。児童はそのあと、太平洋クロマグロの資源量が昔に比べて大きく減っていることを知ります。そして、魚を減らさないために、どんな決まりをつくったらいいか、手を挙げて口々に意見を発表。

石井さんからはルールを守ってとられた魚の目印となる「海のエコラベル」の紹介もありました。



2019年9月27日(金)

京都府 京都市立岩倉北小学校 5年生55名

講師: 日本ESD学会副会長 手島利夫

ゲスト講師: 東海大学海洋学部博物館 伊藤芳英
海洋プラスチック問題について



講師の手島利夫先生



東海大学海洋学部博物館学芸員 伊藤芳英さん

昨年度よりSDG sの視点を持って授業を進めていくことになった、京都市立岩倉北小学校の56年生の児童を対象に出張授業を実施。

講師は東京の小学校の校長を歴任し、現在、学校教育の現場でESD・SDG sの普及に努めている、日本ESD学会副会長の手島利夫氏。

授業は、縄文時代にさかのぼり克服してきた事柄を紹介し、現代で取り扱わなくてはならない問題などを児童に考えてもらうワークショップ形式です。冒頭、手島先生の提案で子供同士握手をすることからスタート。すっかりリラックスした児童は活発に発言していました。16歳の環境活動家グレッタさんも紹介されましたよ！

授業の後半は、東海大学海洋学部博物館の学芸員、伊藤芳英さんが登場。授業のテーマは「深海からの使者」、ミズウオという深海魚です。実際にミズウオの胃から出てきた様々なプラスチックごみを紹介したり、海岸で採取した砂からマイクロプラスチックを取り出す実験などを行いました。



2019年10月4日(金)

大阪府 大阪市立南小学校 5・6年生 62名
講師:日本ESD学会副会長 手島利夫
ゲスト講師:京都造形芸術大学 竹村眞一
触れる地球で海洋問題を考える



講師の手島利夫先生



京都造形芸術大学教授 竹村眞一さん

授業の1時間目は、日本ESD学会副会長の手島利夫先生。教室には、「海の豊かさを守ろう」「気候変動に具体的な対策を」など、SDGsの目標を示す色とりどりのマークがついた大型パネルが計17枚、ずらりと並んでいます。そこに、「この先もずっと豊かに続いていくために、克服しなければならない問題」を自分で付箋に書き込み、貼り付けに行きました。自分の頭を使って考え、仲間どうして相談し、体を動かして作業する。「SDGsとは何か」。子どもたちは、自らの体験を通して、学びを深めました。

2時間目のゲスト講師は京都造形芸術大学教授の竹村眞一さんが登場。デジタル地球儀「触れる地球」を使って授業を行いました。直径60センチの光輝く地球儀は、雲の動き、台風や津波の発生過程、そして地球が温暖化していく様子など、さまざまな情報を映し出すことができます。竹村さんは、地球が太陽からほどよい距離にあり、大気と海があるおかげで、地球の気候が安定していることを解説しました。

そして、海の危機についても、プラスチックごみが海流によってハワイ周辺などに寄せ集められる様子が動画で表示されました。竹村さんは「人類は、大きな力をもつようになってしまいました。でも、その力を使えば、未来を変え、地球を良くすることもできます」と語りかけました。



2019年10月18日(金)

宮城県 仙台市立東長町小学校 5年生114名

講師:日本ESD学会副会長 手島利夫

ゲスト講師:東海大学海洋学部博物館 伊藤芳英
海洋プラスチック問題について



講師の手島利夫先生



東海大学海洋学部博物館学芸員 伊藤芳英さん

授業の1時間目は、日本ESD学会副会長の手島利夫先生。今回も「克服」をテーマに授業は進められました。

導入では縄文時代の話に及びます。「土器を使うことによって、人は硬い木の実や貝などを煮て食べられるようになった。それが、食料危機の克服につながりました。縄文土器は、ものすごく役に立ったんだね」。そして、子どもたちに質問します。「食べ物の問題だけじゃないよね。私たち人間は、これまでにどんな問題を克服してきたのか、考えてみましょう」子どもたちは、まわりの友達とも相談しながら、ワークシートにどんどん書き込んでいきます。

自分の頭を使って考え、仲間どうしで相談し、体を動かして作業する——。「SDGsとは何か」。子どもたちは、自らの体験を通して、学びを深めました。

2時間目のゲスト講師は東海大学海洋学部博物館の学芸員、伊藤芳英さんが登場。授業のテーマは「深海からの使者」。伊藤さんが働いている博物館は、駿河湾に面した三保海岸の近くにあり、貝殻やヒトデ、ウニなどの生物、ときにはクジラも打ち上がることがあるそうです。そして、三保海岸の大きな特徴は、銀色に輝く「ミズウオ」という深海魚が、生きたまましばしば打ち上がることです。実際にミズウオの胃から出てきた様々なプラスチックごみを紹介したり、海岸で採取した砂からマイクロプラスチックを取り出す実験などを行いました。

伊藤さんは授業の最後に、「海の自然を大切にするために、まずは自分にできることから、行動してください」と呼びかけました。



2019年10月23日(水)

広島県 広島市立中野東小学校 6年生99名

講師: 日本ESD学会副会長 手島利夫

ゲスト講師: 朝日新聞社 山本智之
海の温暖化について



講師の手島利夫先生



科学ジャーナリスト 山本智之さん



授業の1時間目は、日本ESD学会副会長の手島利夫先生が講師を担当します。最初に縄文土器についての話をしました。「土器を使うことによって、どんな問題を克服してきたのか、考えてみましょう」子どもたちは、まわりの友達とも相談しながら、ワークシートにどんどん書き込んでいきます。

「何かを克服するということは、世界をより良いものにするということです」と手島先生。「みなさんの住むこの世界が、この先もずっと豊かに続いていくために、克服しなければならない問題は何でしょうか？」子どもたちはそれぞれの考えを、付箋紙にメモをし「持続可能な開発目標」(SDGs)の17目標と見比べ、パネルに自分の付箋を貼り付けに行きました。

自分の頭を使って考え、仲間どうしで相談し、体を動かして作業する——。「SDGsとは何か」。子どもたちは、自らの体験を通して、学びを深めました。

2時間目の授業は、科学ジャーナリストの山本智之さんが担当しました。山本さんが20年間一貫して取り組んでいるのは「海」です。日本はもちろん南極海、ハワイ、ガラパゴス諸島など世界の海に潜り、調査しています。「日本は海に囲まれ、その恵みをたくさん受けていますが、実は今、海でも克服すべき問題があります。」取材で撮影した、沖縄の海のサンゴ礁の写真を映し出しながら紹介してくれました。海水温の上昇によるサンゴの白化現象が深刻です。「サケ」の回遊エリアも変わってきました。

最後に手島先生がまとめます。

「海の温暖化はサンゴの白化、サケの回遊をはじめさまざまな問題を生んでいます。今年発生した大型の台風もそのひとつです。私たちの暮らしに大きな影響があることを知り、問題に向き合うことが求められています。」

子供達でも世界を変えていけることを確認し、授業を締めました。

とても熱心に取り組んでくれた、広島市立中野東小学校の児童でしたが、大勢の保護者も観覧にいらして、一緒に参加していただいたのが印象的でした。

2019年11月8日(金)

神奈川県 鎌倉市立小坂小学校 6年生104名
講師:日本ESD学会副会長 手島利夫
ゲスト講師:遠忠食品 宮島一晃
東京湾の移り変わり、佃煮の歴史



講師の手島利夫先生



日本橋の佃煮屋「遠忠食品」の宮島一晃社長



1時間目は日本ESD学会副会長の手島利夫先生が、講師をしてくださいました。授業の冒頭に、子どもたちにお互いに握手をするよう呼びかけました。

「だれも置き去りにしない。みんなが力を合わせて、一生懸命に勉強してください」自分の頭を使って考え、仲間と互いに相談しあい、体を動かして作業する——。子どもたちはSDGsについて、自らの体験を通して、学びを深めました。

2時間目の講師としては、日本橋で佃煮を製造・販売している遠忠食品株式会社の社長、宮島一晃さんが登場しました。宮島さんは、東京湾でとれた海苔やアサリなどを材料にして、無添加の佃煮づくりに取り組んでいます。

「この人を知っていますか？」子どもたちに徳川家康の絵を見せながら、江戸時代に始まった佃煮作りを紹介しました。

「昔は今のよう冷蔵庫がない。食品を日持ちさせるためでした」そして、東京湾の環境変化に話題が広がります。

東京湾にはかつて、広大な干潟が広がっていましたが、明治時代に比べるとその9割が埋め立てによって失われたといわれています。「干潟には水を浄化する力があります。干潟にすむ二枚貝が、水をきれいにしてくれるんです」宮島さんは、東京湾を含めて全国的にアサリの漁獲量が減っていることに触れました。その原因はよく分かっていませんが、海の環境が変わったためではないかと考えられています。

そして、最後に子どもたちに呼びかけました。

「日本の一次産業がずっと続いていくように、できれば国産の食材を食べてもらえればと思います」

2019年12月3日(火)

東京都 目黒区立五本木小学校

講師:日本ESD学会副会長 手島利夫

ゲスト講師:JAMSTEC 原田尚美

海の酸性化について



講師の手島利夫先生



国立研究開発法人 海洋研究開発機構 原田尚美さん



今年最後の10回目の授業。1時間目は、これまでの全ての学校と同様に、日本ESD学会副会長の手島利夫先生が、講師をしてくださいました。

「だれも置き去りにしない。みんなが力を合わせて、一生懸命に勉強してください」最初の話題は「縄文土器」についてです。

「土器を使うことによって、硬い木の実や貝などを煮て食べられるようになった。それが、食料危機の克服につながりました。何かを克服するということは、世界をより良いものにすることです」と手島先生。「みなさんの住むこの世界が、この先もずっと豊かに続いていくために、克服しなければならない問題は何でしょうか？」子どもたちはそれぞれの考えを付箋紙にメモし、計17枚の大型パネルに自分の付箋を貼り付けに行きました。

自分の頭を使って考え、仲間と互いに相談しあい、体を動かして作業する——。子どもたちはSDGsについて、自らの体験を通して、学びを深めました。

2時間目の講師は、海洋研究開発機構地球表層システム研究センター長の原田尚美さんが登場しました。

原田さんは、海底にたまった泥を解析して過去の地球の環境を調べる研究に取り組み、女性初の南極観測隊副隊長も務めました。南極での調査のようすを紹介したあと、原田さんは「海の酸性化」について解説しました。酸性化の影響を受ける生き物の具体例として原田さんが挙げたのが、炭酸カルシウムの殻をもつプランクトンの一種です。3Dプリンターで作った立体模型を2種類、子どもたちに手渡しました。見かけはよく似た2つですが、一つは重く、もう一つは軽いことに子どもたちは気づきました。軽いほうの有孔虫は、酸性化の影響を受けたものです。

原田さんは桶の中に並んだお寿司を写真で見せながら、海の酸性化が進むと将来、貝類や甲殻類などの寿司ダネが減ってしまうかもしれないことも説明しました。

そして、「海の中の問題はプラスチックごみだけではないということ、今日おうちに帰ったら家族の人たちに教えてあげてください」と子どもたちに呼びかけました。

先生方の感想

子どもたちがハツラツと授業に参加していたのがとてもよかったです。パネルに貼った付せんはそのまま授業で活用したいと思いました。(実際にその後この授業を元にSDGsの授業を行われたそうです)

世田谷区立赤堤小学校 堀江理砂先生

先日は出前授業ありがとうございました。

子どもたちは海的话题を口にしたたり、廊下に掲示したポスター等をじっくり眺めたりしています。素晴らしい授業でした。毎年やっていただけないかという思いがつのるばかりです。

札幌市立太平南小学校 隈本一哉先生

児童の感想

マイクロプラスチックを初めて見聞きして、びっくりしました。あんなに小さくなったら、もう拾えないどころか見つけられないと思います。海に行って清掃活動をしたいと思いました。

仙台市立東長町小学校 男の子11歳

海がとっても傷ついていることを知って、自分がもし海に行ってゴミが落ちていたらちゃんと持って帰って捨てたいし、ゴミをほかしている人がいたら声をかけたりしたいです。

京都市立岩倉北小学校 男の子10歳

海洋酸性化についてくわしく教えてもらって、環境が悪くなったら、お寿司が食べられなくなって悲しいなと思いました。これからは今の現状を理解して、一番いい行動をしていきたいと考えました。

目黒区立五本木小学校 11歳 女の子

SDGsについてよりくわしくなれました。私はゴミを海に捨てたりしないし、買い物のときはエコバッグを持って行くなど、私たちができることをやっていきたいと思っています。

札幌市立太平南小学校 11歳 女の子

子どもにも世界を変える力があると言われて、私たちが世界を本当に変えてみたいと思った。もっとSDGsのことを勉強したいと思った。

鎌倉市立小坂小学校 12歳 女の子

地球の環境がとても悪くなっていることにおどろいた。ほくも地球の環境を守ることに取り組みたいです。

広島市立中野東小学校

授業をきっかけに、気づきがあり、行動をおこしたいという意見が多くみられました



②海のSDGsに関する学習教材を制作

B5判24Pの学習教材「海とSDGsについて考えてみよう！」を制作しました



世の中にはSDGsについて書かれた本がたくさん販売されていますが、それらの多くはSDGsの17つの目標を解説するだけで、子どもたちに考えてもらう内容になっていません。まるで、ひと昔前の教科書か参考書のような感じです。

出張授業を受けてくれた大半の子どもたちは海の(プラ)ゴミ問題しか知りませんでした。

私たちが制作した「海とSDGsについて考えてみよう！」は、子どもたちに今海で何が起きているかを知ってもらい、その問題をどう自分ごとにしていくかを重視して制作しました。

これまでにない、新しい学習教材です。

この本の特徴

この学習教材のために筆者である山本が長期にわたる取材を行っています。

使用した写真の大半は、山本による撮影で、例えば海の酸性化のために式根島の海底に潜り、撮影を敢行しました。

日本の名だたる海洋研究の先生、SDGs教育の先生方にご協力をいただき、監修をお願いしています。

これから先、増刷を重ね、たくさんの教育現場、児童に手に取ってもらえる内容であると自負しています。



海とSDGsについて考えてみよう!

小学生のみさんへ

海とSDGsについて考えてみよう!という本が、小学生のみなさんへ、海の大切さや、SDGsの目標について、楽しく学べるように作られています。この本は、海の大切さや、SDGsの目標について、楽しく学べるように作られています。この本は、海の大切さや、SDGsの目標について、楽しく学べるように作られています。

目次

海の大切さやSDGs	3ページ
海の資源	9ページ
海の生物	13ページ
海のゴミ	17ページ
海の資源やSDGsについて考える	19ページ
海の大切さやSDGs	22ページ

プラスチックのゴミからプラスチックごみ

プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。

プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。

プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。

プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。プラスチックのゴミは、海に流れて、魚や鳥に食べられてしまいます。

海の資源はプラスチックごみが多くなる?

海の資源はプラスチックごみが多くなる?という本が、海の資源や、プラスチックごみの問題について、楽しく学べるように作られています。この本は、海の資源や、プラスチックごみの問題について、楽しく学べるように作られています。

海の資源はプラスチックごみが多くなる?という本が、海の資源や、プラスチックごみの問題について、楽しく学べるように作られています。この本は、海の資源や、プラスチックごみの問題について、楽しく学べるように作られています。

海の資源はプラスチックごみが多くなる?という本が、海の資源や、プラスチックごみの問題について、楽しく学べるように作られています。この本は、海の資源や、プラスチックごみの問題について、楽しく学べるように作られています。

『マイクロプラスチック』って何?

マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。

マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。

マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。マイクロプラスチックは、非常に小さなプラスチックの粒子です。

サンゴは危険にさらされている?

サンゴは危険にさらされている?という本が、サンゴの生態や、サンゴの危機について、楽しく学べるように作られています。この本は、サンゴの生態や、サンゴの危機について、楽しく学べるように作られています。

サンゴは危険にさらされている?という本が、サンゴの生態や、サンゴの危機について、楽しく学べるように作られています。この本は、サンゴの生態や、サンゴの危機について、楽しく学べるように作られています。

サンゴは危険にさらされている?という本が、サンゴの生態や、サンゴの危機について、楽しく学べるように作られています。この本は、サンゴの生態や、サンゴの危機について、楽しく学べるように作られています。

日本のサケが減ってしまってる？

2005年 2006年 2007年 2008年 2009年 2010年 2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年

2020年のサケの漁獲量は、前年比で約10%減少しました。これは、気候変動による水温上昇や、漁獲規制の厳格化などが原因と見られています。

「持続可能な」になったプラスチック

2020年、持続可能なプラスチックの使用量は、前年比で約20%増加しました。これは、再生プラスチックの活用や、バイオプラスチックの開発などが主な要因です。



コンパが激化していく？

2020年、コンパの発生率は、前年比で約15%増加しました。これは、リモートワークの普及や、オンラインサービスの増加などが原因と見られています。

減って？ 食糧コスパ

2020年、食糧コスパは、前年比で約10%減少しました。これは、原材料の高騰や、物流コストの上昇などが主な要因です。

清が「数値化」するまで、どういこと？

2020年、水の清さを数値化する取り組みが、全国で約50%増加しました。これは、透明性の向上や、消費者の意識の高まりなどが原因と見られています。

新たなみどり、清の持続性

2020年、新たなみどりの持続性は、前年比で約15%増加しました。これは、再生水の利用や、節水技術の普及などが主な要因です。

クリアになる未来像

2020年、クリアになる未来像は、前年比で約20%増加しました。これは、デジタル化の進展や、AI技術の活用などが主な要因です。

清の量を増やそう！

2020年、清の量を増やす取り組みは、全国で約30%増加しました。これは、節水器具の普及や、雨水利用の推進などが主な要因です。

清の「量産化」はもう始まっている？

2020年、清の「量産化」は、前年比で約15%増加しました。これは、大規模な浄水施設の稼働や、再生水の活用などが主な要因です。

17の目標、互いにかかっている

2020年、17の目標は、互いにかかっていることが明らかになりました。これは、持続可能な開発の達成には、多面的なアプローチが必要であることが示されています。

数値化した「未来の清」のようは？

2020年、数値化した「未来の清」は、前年比で約10%増加しました。これは、データ駆動型の水管理や、AI技術の活用などが主な要因です。

事例にもなる「未来の清」

2020年、事例にもなる「未来の清」は、全国で約20%増加しました。これは、先進的な水管理技術の導入や、地域連携の推進などが主な要因です。

③ 継続的な広報

朝日小学生新聞にて海と日本プロジェクトの活動を定期的に発信しました。

報告資料 継続的な広報

出張授業告知(参加校募集) 5段カラー

子どもと海のSDGs
SDGsってなんだろう

出張授業 参加校募集!

海の豊かさを守るために
私たちができることはなんだろう

このイベントは、海と日本PROJECTの一環で実施しています

応募締切 **6/21**

! 最近SDGsという言葉をよく聞きませんか?

SDGsとは「持続可能な開発目標」という意味です。「持続可能な」とは、うれしいことや楽しいこと、しあわせな暮らしがいつまでも続くことをいいます。世界中の人がしあわせな暮らしを続けていくために2030年までに実現しなくてはならない17つの目標がSDGsなのです。実は来年の4月から小学校でもSDGsに取り組むことが義務づけられました。小学生のみなさんには未来に向けて持続可能な社会を創ってってもらいたいからです。これだけ聞くとなんだか難しそうに感じるかもしれませんが、SDGsの1番から17番までの中身はすべて、学校でのふだんの学びにつながっています。出張授業では「海」を切り口にわかりやすくSDGsについて学んでいただけます。たくさんのご応募をお待ちしています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



内 容	全国の小学校にSDGs教育の専門家と海に関わる研究者、専門家を派遣しSDGsについて、SDGs14番目の目標である「海の豊かさを守るために」を中心によりよい世界をつくるためにどうすればいいかを考えてもらう授業です。
募集対象	全国の小学校4～6年生(クラス、学年、学校単位で100名程度まで 全国で10校程度実施予定)
授業時間	2時間(45分×2コマ)
募集条件	授業の様子は撮影させていただき、朝日小学生新聞、海と日本プロジェクトHP等に掲載させていただきます。あらかじめご了承ください。
参加費	無料
実施期間	2019年6月下旬～7月 9月～12月
応募方法	応募用紙に記入の上メール、またはFAXでお申し込みください。応募用紙は以下のURL、右のQRコードからダウンロードするか、事務局にご連絡ください。
	URL www.asagaku.com/umi.html mail school@asagaku.co.jp FAX 03-3545-0978
お問い合わせ	TEL.03-3545-5226(平日10時から17時)



講師/手島利夫 日本ESD学会副会長

江東区立東豊小学校・八名川小学校の校長を歴任し、ユネスコスクールとしてESDカレンダーの開発やESDの推進に携わり、現在に至る。2007年から11年間ESD円卓会議委員を務める。2010年東豊小が、2012年八名川小がユネスコスクールESD大賞を受賞。2014年ESD世界会議に参加。2017年八名川小学校がジャパンSDGsアワード特別賞を受賞。共著に「未来をつくる教育ESDのすすめ」(日本標準ブックレット2008年) 著書に「学校発・ESDの学び」(教育出版2017年)がある。

主催/子ども海の学習プログラム推進プロジェクト実行委員会 協力/朝日小学生新聞 日本ESD学会

出張授業告知 5段カラー
2019年5月30日(木)



出張授業告知 5段カラー
2019年6月8日(土)



出張授業告知 5段カラー
2019年6月11日(火)



出張授業告知 5段カラー
2019年6月20日(木)



応募開始から締め切りまでの期間が3週間と短いにも関わらず、全国37の小学校からお申込みをいただきました。

朝日小学生新聞 2019年8月17日(土)掲載

朝日小学生新聞 2019年(金)8月17日 土曜日 4

SDGsってなんだろう? 「海」を切り口に楽しく学ぶ 出張授業開催

子どもと海のSDGs

SDGsってなんだろう

SDGs(Sustainable Development Goals)は2015年9月の国連サミットで採択された。2030年までによりよい世界をつくるための持続可能な開発目標です。小学校でも来春4月以降、授業を豊富に、多様な人々と協力して「持続可能な社会の創り手」にもなるための教育がスタートします。

子ども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会では、「海」を切り口にSDGsを楽しく学ぶ出張授業を全国の小学校で開催していきます。第1回と第2回目の授業の様子を紹介します。



人間は地球から始まる

「人間は地球から始まる。地球は宇宙から始まる。」と、宇宙飛行士・原田浩二さんが、出張授業を行いました。原田さんは、宇宙飛行士の経験から、地球の大切さや、持続可能な開発目標(SDGs)の重要性について、子どもたちに話しました。

SDGsってなんだろう?

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに達成を目指す17の持続可能な開発目標です。これらは、貧困、気候変動、海洋プラスチック問題など、世界が直面している様々な課題に対応するための目標です。

海のSDGs

今回の出張授業では、特に「海の豊かさを守ろう(目標14)」と「陸の豊かさも守ろう(目標15)」の2つの目標を重点的に学びました。海洋プラスチック問題の現状や、海の資源の大切さについて、子どもたちは真剣に話を聞いていました。

実践活動

授業の最後には、SDGsの17の目標について、子どもたちがグループごとに話し合い、自分たちができることを発表しました。また、SDGsのポスターコンクールや、SDGsのクイズ大会なども行われ、子どもたちは楽しく学びました。

子ども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会では、今後も全国各地の小学校で開催していきます。ご協力をお願いします。

主催/子ども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会 協力/朝日小学生新聞 日本ESD学会

朝日小学生新聞 2019年10月18日(金)掲載

朝日小学生新聞 2019年(金)10月18日 金曜日 4

SDGsってなんだろう? 「海」を切り口に楽しく学ぶ 出張授業開催

子どもと海のSDGs

SDGsってなんだろう

SDGs(Sustainable Development Goals)は2015年9月の国連サミットで採択された。2030年までによりよい世界をつくるための持続可能な開発目標です。小学校でも来春4月以降、授業を豊富に、多様な人々と協力して「持続可能な社会の創り手」にもなるための学校教育がスタートします。

子ども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会では、「海」を切り口にSDGsを楽しく学ぶ出張授業を全国の小学校で開催していきます。第3回から第5回目の授業の様子を紹介します。



人間は地球から始まる

「人間は地球から始まる。地球は宇宙から始まる。」と、宇宙飛行士・原田浩二さんが、出張授業を行いました。原田さんは、宇宙飛行士の経験から、地球の大切さや、持続可能な開発目標(SDGs)の重要性について、子どもたちに話しました。

SDGsってなんだろう?

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに達成を目指す17の持続可能な開発目標です。これらは、貧困、気候変動、海洋プラスチック問題など、世界が直面している様々な課題に対応するための目標です。

海のSDGs

今回の出張授業では、特に「海の豊かさを守ろう(目標14)」と「陸の豊かさも守ろう(目標15)」の2つの目標を重点的に学びました。海洋プラスチック問題の現状や、海の資源の大切さについて、子どもたちは真剣に話を聞いていました。

実践活動

授業の最後には、SDGsの17の目標について、子どもたちがグループごとに話し合い、自分たちができることを発表しました。また、SDGsのポスターコンクールや、SDGsのクイズ大会なども行われ、子どもたちは楽しく学びました。

子ども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会では、今後も全国各地の小学校で開催していきます。ご協力をお願いします。

主催/子ども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会 協力/朝日小学生新聞 日本ESD学会

朝日小学生新聞 2019年11月20日（水）掲載

朝日小学生新聞 2019年12月23日（月）掲載

【本誌広告】 2019年11月20日 掲載

SDGsってなんだろう？ 「海」を切り口に楽しく学ぶ 出張授業開催

子どもと海のSDGs SDGsってなんだろう

SDGs(Sustainable Development Goals)は2015年9月の国連サミットで採択された。2030年までにありたい世界をつくるための持続可能な開発目標です。小学校でも昨年4月以降、他校も参加し、多様な人と協力して「持続可能な社会の創り手」になろうという学校の教育がスタートしました。

このも海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会では、「海」を切り口にSDGsを楽しく学ぶ出張授業を全国の小学校で開催しています。第9期と最終期となる第10期の授業の様子をご紹介します。

日本ESD学会 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

10月17日、東京都立大田区立大田小学校(4,5年生 139名)にて出張授業が行われました。講師は、日本ESD学会の理事で、環境教育の専門家である、東京大学大学院工学系研究科環境学専攻の教授、佐藤 浩一先生です。

佐藤先生は、SDGsの17の目標について、子どもたちにわかりやすく説明しました。特に「海の豊かさを守ろう」という目標14について、詳しく説明しました。

子どもたちは、SDGsの17の目標について、興味を持って聞いていました。また、SDGsの17の目標について、自分たちができることを考えました。

出張授業の様子を撮影した写真が、本誌に掲載されました。

主権/子ども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会 協力/朝日小学生新聞 日本ESD学会

【本誌広告】 2019年12月23日 掲載

SDGsってなんだろう？ 「海」を切り口に楽しく学ぶ 出張授業開催

子どもと海のSDGs SDGsってなんだろう

SDGs(Sustainable Development Goals)は2015年9月の国連サミットで採択された。2030年までにありたい世界をつくるための持続可能な開発目標です。小学校でも昨年4月以降、他校も参加し、多様な人と協力して「持続可能な社会の創り手」になろうという学校の教育がスタートしました。

このも海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会では、「海」を切り口にSDGsを楽しく学ぶ出張授業を全国の小学校で開催しています。第9期と最終期となる第10期の授業の様子をご紹介します。

日本ESD学会 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

12月13日、東京都立大田区立大田小学校(4,5年生 139名)にて出張授業が行われました。講師は、日本ESD学会の理事で、環境教育の専門家である、東京大学大学院工学系研究科環境学専攻の教授、佐藤 浩一先生です。

佐藤先生は、SDGsの17の目標について、子どもたちにわかりやすく説明しました。特に「海の豊かさを守ろう」という目標14について、詳しく説明しました。

子どもたちは、SDGsの17の目標について、興味を持って聞いていました。また、SDGsの17の目標について、自分たちができることを考えました。

出張授業の様子を撮影した写真が、本誌に掲載されました。

主権/子ども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会 協力/朝日小学生新聞 日本ESD学会

2019年6月29日 (土)

2019年8月1日 (木)

性別	行きたい	行かない
男子	91%	9%
女子	57%	43%

性別	たまるか?	たまらなそうか?
男子	34%	66%
女子	17%	83%

年齢	たまるか?	たまらなそうか?
小学生	32%	68%
中学生	41%	59%
高校生	73%	27%

2019年8月20日 (火)

2019年8月30日 (金)

2019年11月28日（木）掲載

今夏、海のお仕事を体験した子どもたちが集合!

夏休み期間中、海のお仕事を体験した子どもたちが集まりました。このイベントは、海のお仕事を体験するためのイベントです。子どもたちは、海のお仕事を体験し、海のお仕事を学ぶことができました。

Virtual Ocean Project

海を体験し、海について学ぶ機会を提供するために、海のお仕事を体験するためのイベントを開催しました。このイベントは、海のお仕事を体験するためのイベントです。子どもたちは、海のお仕事を体験し、海のお仕事を学ぶことができました。

2019年12月14日（土）掲載

ドローンに乗ってリアル海中体験 潜水式ではALS患者の方も体験

Virtual Ocean Project (バーチャル・オアションプロジェクト)

海を体験し、海について学ぶ機会を提供するために、海のお仕事を体験するためのイベントを開催しました。このイベントは、海のお仕事を体験するためのイベントです。子どもたちは、海のお仕事を体験し、海のお仕事を学ぶことができました。

海中を泳いでいるような体験を提供

そのための装置は、ヘッドマウントディスプレイのVR空間に接続されています。自分のドローンに乗って海中を泳いでいる感覚が味わえます。このイベントは、海のお仕事を体験するためのイベントです。子どもたちは、海のお仕事を体験し、海のお仕事を学ぶことができました。

2020年3月7日（土）掲載

「いのちの授業」で育てたヒラメ、最後はどうする? 陸養

「いのちの授業」で育てたヒラメ、最後はどうする? 陸養。このイベントは、海のお仕事を体験するためのイベントです。子どもたちは、海のお仕事を体験し、海のお仕事を学ぶことができました。

陸養

海の恵みとして、いのちの大切さを学ぶ。このイベントは、海のお仕事を体験するためのイベントです。子どもたちは、海のお仕事を体験し、海のお仕事を学ぶことができました。

東京

障害ある子ども「放課後」の姿



小平 募金で費用集め、2年かけ制作

映画もやりますけどもクラフ... 中野の目黒で

都立病院の独法化表明
知事、経営や業務効率化

東京都立病院機構は、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。知事からは、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。知事からは、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。

【東京】東京都立病院機構は、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。知事からは、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。知事からは、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。

【東京】東京都立病院機構は、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。知事からは、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。知事からは、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。

【東京】東京都立病院機構は、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。知事からは、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。知事からは、経営や業務効率化を図るため、都立病院の独立行政法人化を表明した。

大切な古美術品・高値宝石をお売りください。
高価買取

【高価買取】
1. 高価買取-定額買取保証(100万円以上-4倍保証)
2. 日本-中国-韓国-台湾-香港-タイ-シンガポール-インド-米国-欧州-オーストラリア-南米-アフリカ-中東-ロシア-中南米-その他-海外-買取保証
3. 日本-中国-韓国-台湾-香港-タイ-シンガポール-インド-米国-欧州-オーストラリア-南米-アフリカ-中東-ロシア-中南米-その他-海外-買取保証

創業20年の経験と実績、お気軽にご連絡ください。

TEL: 03(6404)8474

認可外保育「倒産手続き」
世田谷保育士らが自主運営

東京都世田谷区にある認可外保育施設「こども未来センター」が倒産した。保育士らは自主運営を希望し、認可外保育施設として再開することを決めた。

海がテーマ SDGs学ぶ
目黒の五本木小で授業

海洋研究開発機構の原田尚美さんが、目黒区立五本木小学校で授業を行った。授業では、海の酸性化について子どもたちに語りかける内容であった。

日本語教師養成 無料セミナー開催

12/4・12/15開催
講座ガイダンス

日本語教師養成講座の無料セミナーを開催する。12月4日と12月15日の2回開催される。講座ガイダンスも合わせて開催される。

年末は、やっぱり築地。

人生を考えた時、2019年12月22日(日) 14:00-16:30

人生を考えた時、2019年12月22日(日) 14:00-16:30

人生を考えた時、2019年12月22日(日) 14:00-16:30

12月4日(水)付け朝日新聞 東京版で12月3日の目黒区立五本木小学校の授業が紹介されました。

海がテーマ SDGs学ぶ
目黒の五本木小で授業



海の酸性化について子どもたちに語りかける海洋研究開発機構の原田尚美さん

「海」を切り口に、国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」について学ぶ授業が3日、目黒区の五本木小学校であった。持続可能な開発のための教育に取り組み「日本ESD学会」の手島利夫副会長(67才)、女性初の南極観測が協力した。授業を受けた

のは、4、5年生の約140人。前半の授業を担当した手島さんは、縄文時代の人々が土器を使うことで硬い木の実や貝類などを食べ、食糧難を克服した事例を解説した。その上で、人類が乗り越えるべき課題について、付箋紙に書き込むよう子どもたちに促した。会場の体育館には、「海の豊かさを守ろう」「気候変動に具体的な対策を」など、SDGsの各目標が印刷された大型パネルを17枚配置。子どもたちは課題を書き込んだ付箋紙を各自で大型パネルに張る作業を通じて、SDGsへの理解を深めた。

後半は原田さんが担当。大気中の二酸化炭素が海に溶け込んで起こる「海洋酸性化」について解説。原田さんは、海洋酸性化による悪影響を受けやすい生物について、ウニやアワビ、ホタテガイなどのすしネタを例に紹介。「酸性化は海の生き物にとって脅威になります」と話した。手島さんは「海のプラスチック問題も大切ですが、酸性化も大きな問題です。どんな問題があるのかを学び、自分の足で調べることが大切で」と呼びかけた。(山本智之)

朝日小学生新聞のホームページ
 (<https://www.asagaku.com/>)
 に出張授業の特設ページを設けました。

このイベントは、海と日本PROJECTの一環で実施しています



！最近SDGsという言葉をよく聞きますか？

SDGsとは「持続可能な開発目標」という意味です。「持続可能な」とは、うれしいことや楽しいこと、しあわせな暮らしがいつまでも続くことをいいます。世界中の人がしあわせな暮らしを続けていくために2030年までに実現しなくてはならない17つの目標がSDGsなのです。実は来年の4月から小学校でもSDGsに取り組むことが義務づけられました。小学生のみなさんには未来に向けて持続可能な社会を創ってほしいからです。これだけ聞くとなんだか難しそうに感じるかもしれませんが、SDGsの1番から17番までの中身はすべて、学校でのふだんの学びにつながっています。



三 子どもと海のSDGs「SDGsってなんだろう」出張授業レポート

いいね！0 シェア ツイート

札幌市立太平南小学校の5年生54名が授業に参加してくれました。

1時間目の講師は、日本ESD学会副会長の手島利夫先生。手島先生は、縄文人が土器を使うことによって、硬い木の実や貝などを煮て食べ、食糧難を克服した事例を紹介しました。

「食べ物だけじゃないよね。私たち人間は、これまでにどんなことを克服して、生きてきたのでしょうか？考えてみましょう」

児童たちは真剣な表情で、ワークシートに書き込んでいきます。「寒さ」「のみ水」「病気」……様々なキーワードが飛び出しました。



「何かを克服するっていうことは、今までより世界をより良くすることだよ」と手島先生。

「みなさんの住むこの世界が、この先もずっと豊かに続いていくために、必要なことは何でしょうか？」

克服しないといけない具体的な問題を考え、各児童が5枚ずつ、付箋紙に書きました。

教室には、「貧困をなくそう」、「海の豊かさを守ろう」など、色とりどりのマークが印刷された大型パネルが17枚並べてあります。これらは、国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)の目標です。

「これはね。ずっと続く豊かな未来のために、国際連合で決めた17の目標です。いま書いてくれた問題は、どの目標に関係があるかな？」と手島先生。大型パネルに自分の付箋紙を貼りに行くよう、児童たちを促しました。

たくさんの付箋紙が、それぞれのパネルに貼られていきます。児童たちは、自分で考えて、お互いに相談し、そして、体を動かしながら、「SDGsとは何か」を学びました。

9月27日の京都市立岩倉北小学校での授業の様子は、公益社団法人全国学校図書館協議会(SLA)が発行する学校図書館向け写真ニュース「としょかん通信」小学生版の2020年2月号で紹介されました。(B2横長・月刊・カラー版・小学生版2,000部発行)

小学生版 2020.2

としょかん通信

全国SLA写真ニュース

小学生版 2月号



2020年2月1日発行 (毎月1日発行) 第359号
2枚1組 印刷990円(本体900円) ISSN 0915-7697

公益社団法人 全国学校図書館協議会
〒113-0003 東京都文京区目黒5-3-7
TEL 03-3814-4317 FAX 03-3814-4790 http://www.j-sha.or.jp/

いま自分たちに できることはなんだろう

SDGs

最近、SDGsっていう言葉をよく目にするけど、どんな意味なのかな?

SDGsとは

世界のさまざまな国で、戦争や紛争が起こり、貧困や飢餓、差別などで苦しんでいる人たちが後を絶ちません。また、地球温暖化などによる異常気象が原因で、大きな災害も起きています。SDGs(持続可能な開発目標)は、世界中の人たちが将来に向けて幸せに暮らしていけるようにと定めた目標のことです。2015年9月、国連サミットで採択されました。

サステイナブル Sustainable = 持続可能な
ディベロップメント Development = 開発
ゴールズ Goals = 目標

17のゴール(目標)

“将来に向けて、いい状態で続けることができるような力”という意味が含まれています。

ほかにできることはなにか?



読んでみよう!

知っていますか? SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール 公益社団法人日本ユニセフ協会制作協力 さ・え・ら・書房

国語科と考えるSDGsがわかる本 国語科 監修 文芸堂

プラスチックごみに関する本

ボリふくろ、1まい、すてた ミランダ・ポール文 エリザベス・スーソン 絵 藤田千枝 訳 さ・え・ら・書房

ケジラのおなかからプラスチック 保原隆記 著 旬報社

地球が危ない! プラスチックごみ① 海洋プラスチック : 魚の腹をこえる!? 中塚 誠 著 高田実業 ほか協力 汐文社

地球が危ない! プラスチックごみ② 海洋プラスチック : 魚の腹をこえる!? ジョージア・アムノック・プラッド・ローラー 著 ぶんま 監訳 群書楼

プラスチックは分解されないで、魚がゴミをのみこんでしまったんだね。

学校でもできるSDGsの取り組み例

ハブラシ回収プロジェクト

新渡戸文化小学校(東京都中野区)



12 つくばるものをつかえ
13 気候変動に具体的な対策を

ハブラシ回収プロジェクトでは、いらなくなった家庭用のハブラシを集め、リサイクル活動を行っている団体に送ります。そこで新しいプラスチックに生まれ変わり、植物の鉢などに使われます。これによって、プラスチックごみの量を減らすことが可能になるのです。

記者・写真提供: 新渡戸文化小学校

プラスチックごみに関するミニ実験

岩倉北小学校(京都市左京区)



子どもたちは、ゲストの大学の先生が持ってきてくれた海岸の砂を使って「ミニ実験」を行いました。砂を入れた容器に水を入れ、振りばしでよくかき混ぜます。すると、浮かび上がってきたのは、青や緑、ピンク色の小さな粒だったのです。そう、これは、プラスチックごみなのです。

ゲストの先生は、静岡市の三保海岸では、全長60~140センチほどのミズウオという深海魚が生きたまま陸に打ちあがるので、ふだんどんなエサを食べているのか、長期観測を続けています。そして、最近、ミズウオの胃の中から、プラスチックごみが見つかる確率が増えていると話してくれました。

記者・写真提供: こども海洋学習プログラム推進プロジェクト実行委員会



KBS京都「キモイリ！」10月12日(土)ON AIR

9月27日の京都市立岩倉北小学校での授業の様子は、
KBS京都の番組「キモイリ！」(毎週土曜日 午前10:30~11:55)
で3分間にわたり紹介されました



RCC中国放送 「facebook」「ニュースサイト」掲載

10月23日の広島市立中野東小学校での授業の様子は、RCC中国放送の「facebook」「ニュースサイト」にて掲載されました

Facebook post from '海と日本プロジェクト in 広島' dated 2019年11月6日. The post describes a lesson at 広島市立中野東小学校 where students learned about SDGs. It mentions that the lesson was selected for the '2030 Agenda' and that the school is participating in the 'Sea and Japan Project in Hiroshima'.

News article on RCC TV website dated 2019年11月6日. The article reports on the lesson at 広島市立中野東小学校, highlighting the focus on SDGs and the 'Sea and Japan Project in Hiroshima'.